

30年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は3社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
入荷動向	国産材	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	外材	0.0	0.0	0.0
在庫動向	国産材	25.0	0.0	0.0
	外材	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は11月、12月の減少から1月は横ばいに。外材は3カ月連続横ばい推移。

・国産材の在庫動向は11月の増加から12月、1月は横ばいに。外材は3カ月連続横ばい推移。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格動向は横ばい。

・欧州材、その他（米ヒバ）は横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・国産材ヒノキ入荷動向は、11月も自社製材工場の稼働好調ということで、国産材ラミナの供給は抑え気味、販売の方は好転してきたが、まだラミナ在庫は多いので引き続き購入は抑える。来年以降は販売の状況を見つつ様子見。米ヒバは、当社の生産が上がらなかったため入荷を抑えて来たが、8月からは通常の月間1,200m3程度の入荷に戻した。11月以降も同様のペースで入荷していく予定。国産材ヒノキの在庫動向は、11月は自社工場の稼働が好調であったため、ラミナ在庫は増える傾向にある。一方販売の方はこの秋イマイチ不調であったが、10月中旬以降好調な受注が入りつつあり、生産も増産させるべく努力している。以上の状況により在庫の増加は11月くらいで一旦歯止めがかかる見通し。米ヒバは、一時の現地での素材集材難は完全に払拭され、ラミナも計画通り入荷は進んでいる。11月、12月と販売量や生産量が大きく変わることも想定されず、年内は安定的に推移する予定。

(ラミナ価格動向)

・ヒノキラミナの価格動向は、7月西日本豪雨があり、ヒノキ原木入荷が非常に厳しく協力工場各社は値段を上げたいのだろうが、当社のラミナ在庫も十分にあり、今の所慌てて買う必要がないので、今の所値上げはしないで購入できている。輸入ラミナの話は情報が取れていないが、世界的な木材需要の高まりを受け、少なくともラミナ値段は安くはなっていないと思われる。米ヒバは急激に値上がりした米国向け米スギ材の代替需要により、米スギにつられて値段が上がってきたが、ここに来て米スギ価格は完全に天井に達し下落し始めた。米スギが手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

30年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
生産動向	国産材	△ 16.7	16.7	16.7
	WW集成管柱	25.0	25.0	0.0
	RW集成平角	0.0	0.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	16.7	16.7	0.0
	WW集成管柱	25.0	25.0	0.0
	RW集成平角	25.0	25.0	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材の生産動向は11月の減少から12月、1月は増加に。WW集成管柱は11月、12月の増加から1月は横ばいに。RW集成平角、米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。

・国産材、WW集成管柱、RW集成平角の出荷動向は11月、12月の増加から1月は横ばいに。米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	25.0	25.0	0.0
RW集成平角	△ 25.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	—	—	—

・スギ集成管柱の価格動向は横ばい。
 ・ヒノキ集成柱、集成土台とも横ばい。
 ・カラマツ集成土台、集成平角とも横ばい。
 ・WW集成管柱強含み。
 ・RW集成平角は弱保合。
 ・米マツ集成平角は横ばい。
 ・米ヒバ土台角横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・ヒノキ構造用集成材の生産動向は、11月は工場の設備一部更新予定しており、作業中は生産が少し落ちた。12月は11月の生産遅れを取り戻すことと、販売の方も好調なのでこれを機に増産に転じるべく努力中。1月もそのまま増産予定。それ以降は来年の販売動向を見つつ様子見。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しずつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年内の生産は増加傾向で推移するのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、11月は荷動きが多少回復してきたとの話も聞かれる。しかし、これまでの在庫を各メーカーまだ抱えているようで、増産に転じるまでの状況にはまだないのではないかと考える。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりでストップしたので、小康状態に落ち着いてるのではないかと。米ヒバ集成土台は、11月の生産と販売も安定しており月産800m³の生産と同量の販売は出来ている。12月も継続このペースで安定する見込み。

・ヒノキ構造用集成材の出荷動向は、10月販売低調であった11月から出荷が増えてきた。弊社がスペックインしている大手建売系メーカーの建て方がピークを迎えた関係で出荷が伸びている。また一般からの引合いも比較的活発。出荷は年内は好調の見込み。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しずつ市況回復基調にあり」とのことで、メーカー各社は年内の出荷は増加傾向で推移するのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、11月は荷動きが回復してきたとの話も聞かれる。年内の出荷は増加していくのではないかと予想する。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。米ヒバ集成土台は、11月の生産と販売も安定しており月産800m³の生産と同量の販売は出来ている。12月も引き続きこの

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱の出荷価格動向は、当社生産品目ではないが、大手メーカーが安定量産体制を整えたことから、在庫潤沢に抱えているとの噂もあり、一部価格の弱含みも聞く状態。弱含み傾向で当面横ばい推移と予想。ヒノキ集成柱は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。ヒノキ集成土台は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきているものの、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、WW、RW集成材管柱は「10月から少しづつ市況回復基調にあり」とのことで、ようやく一部値上げの話が出たという噂を聞いた。ラミナコストは間違いなく上がっているの、多少は値上げの依頼が出て通りつつあるのではないかと推察。RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m³程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。期待した秋需の盛り上がりもなく、完全に弱含み状態。原料のラミナコストは一方的に上昇しているため、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられているものと推察。相場も60,000円/m³から6万円を切る様な話も聞く。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは米マツの丸太価格の値上がりがストップしたので、製品への価格転嫁の話も今は落ち着いたのではないかと推察。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。